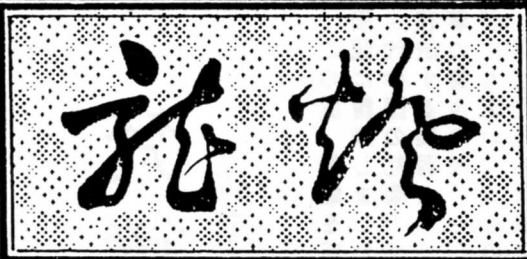


第35号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 靈龜山 九島 禪院
 ☎550-0022大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-6583-2725
 発行人 住職 奥田 啓知(智證)

大阪にオリンピックを！
 九条に中華街を！
 阪神西大阪線延伸決定！



成人式を考える (二)

— 宗教教育いまこそ必要！ —

今年ほど荒れに荒れた成人式はありませんでした。小紙でも二年前、仙台市の成人式での携帯電話や私語に激怒した早大教授の事件をとりあげましたが、今年も各地で行われた成人式で、一部若者たちによる傍若無人な振る舞いが次々に報道され論議を呼びました。

高知県では、祝辞を述べる知事が、二階席の騒ぐ新成人に一人喝。高松市では、最前列の新成人が一升瓶を回し飲みをして騒いだあげく、挨拶する市長にクラッカー(爆薬)を鳴らすなどして式を妨害しました。喧嘩や暴力沙汰は各地で起きました。

高松市長は、式の進行を妨害したとして威力業務妨害容疑で高松北署に告訴。同署は出頭してきた新成人容疑者を逮捕しました。また、文部科学省も都道府県教育委員会を通じ、全国の成人式の実施状況を調査し、来年度以降の成人式の運営に役立つといます。

彼らが騒いだのは、成人式を格別に批判してのことではなく

はじめから式を混乱させ、妨害することが目的で、人前で目立ちたいとの子供ばい考えで面白がってやったに過ぎません。町の暴走族と同じなのです。

キリスト教では、基本的に子どもは未完成なものとして、いわば動物の段階にあり、人間にまで高めるためには、懲戒する教育が必要とされています。旧約聖書「箴言」第一三章には、「むちを加えない者はその子を憎むのである、子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる」とあります。

一方仏教では、すべての人間——大人も子供も含めて——を衆生悉有仏性と言っています。一切に、すべての生きものに仏(ほとけ)となる可能性が宿っている。子どものうちにあるほとけの可能性を高め育て、本来有している仏性を覆っている煩惱を取り除くのが、仏教で考える教育なのです。

いづれも、考え方の根本は違っても、「わがまま勝手」「好

き放題」を許さず、宗教教育の必要を述べています。

小中学校での「学級崩壊」は大学の講義にも及んでいるようで、一部の「お調子者」や「鼻つまみ者」が騒ぐだけでなく、あおったり、はやし立てる者が少数派ではないそうです。友人が羽目を外し、乱暴を振るって止めようともせず、薄ら笑いを浮かべて見守るような若者気質は、学校でのいじめとも無縁ではありません。

「わがまま」を「自由や権利」として教えてきた戦後教育のつじが回ってきたといえるのです。満二十歳になれば成人と国が認める以上、無法の暴力行為をはたらけば、社会的責任の重みを十分に自覚し反省させるべきであり、宗教教育の大切さにも思いをよせるべきだと考えます。「社会崩壊」するまえに



なごやかな成人式はいずこへ？

